



鳥居薬品の志

患者さんとそのご家族や医療に携わる方々に誠実に向き合い、
患者さんの健康回復と、病に縛られない豊かで笑顔多い人生に貢献する

長い歴史の中で培った皆様からの信頼を受け継ぎながら、
時代や環境に合わせて柔軟に変革・進化し、
私たちだからこそ出来る医療への貢献に挑戦し続ける

第132期 報告書

2023年1月1日 ▶ 2023年12月31日

決算のポイント

1

売上高は、薬価改定による減少があったものの、アレルギー領域、皮膚疾患領域における販売数量の伸長等により、546.3億円と前事業年度に比べ57.4億円（11.7%）増加。

2

腎・透析領域の製商品売上高は、「リオナ錠」が増加したものの、「レミッチ」が後発品および薬価改定の影響を受け減少したことにより、118.8億円と前事業年度に比べ1.2億円（1.0%）減少。

3

皮膚疾患領域の製商品売上高は、小児向け処方を含む販売数量の伸長により「コレクチム軟膏」が増加したことに加え、「アンテベート」も増加し、142.6億円と前事業年度に比べ18.7億円（15.1%）増加。

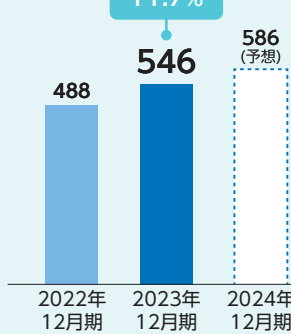
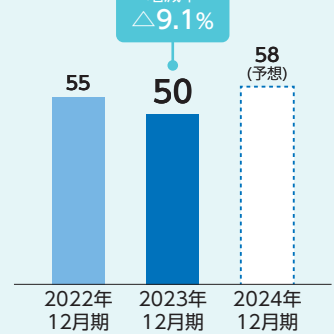
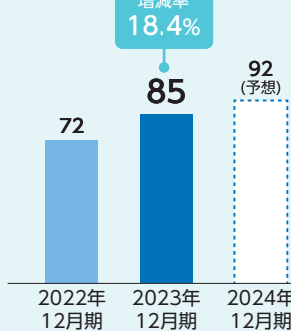
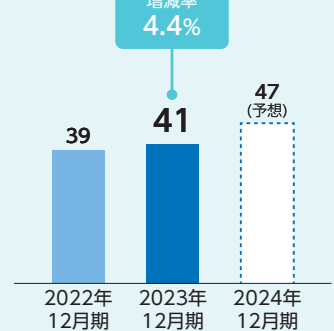
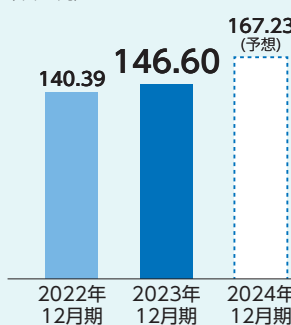
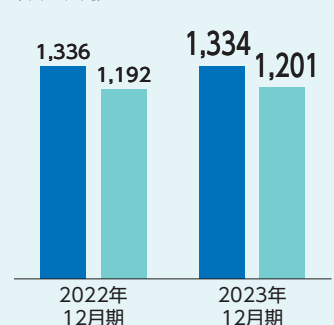
4

アレルギー領域の製商品売上高は、アレルギー免疫療法さらなる普及により「シダキュア スギ花粉舌下錠」及び「ミティキュア ダニ舌下錠」が伸長し、216.8億円と前事業年度に比べ31.8億円（17.2%）増加。

5

営業利益は主にライセンス契約一時金の支払により研究開発費が大幅に増加したことから、50.3億円と前事業年度に比べ5.0億円（9.1%）減少。なお、当期純利益は政策保有株式の売却に伴い特別利益の投資有価証券売却益が増加したこと等により41.1億円と前事業年度に比べ1.7億円（4.4%）増加。研究開発費控除前営業利益は、85.2億円と前事業年度に比べ13.2億円（18.4%）増加。

決算ハイライト

売上高
(単位:億円)営業利益
(単位:億円)研究開発費控除前営業利益
(単位:億円)当期純利益
(単位:億円)1株当たり当期純利益
(単位:円)総資産
(単位:億円)

株主の皆様へ

ごあいさつ



代表取締役社長
松田 剛一

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第132期(2023年12月期)の経営成績につきましてご報告いたしますので、ご高覧いただけますようお願いいたします。2023年度は、売上高及び研究開発費控除前営業利益が、前年度から大幅に増加しました。加えて、新薬開発の推進が順調に進捗し、新規導入品を2件獲得できたこと等により、中長期事業ビジョン「VISION2030」の実現に向け、着実な進捗が見られた一年でありました。なお、2023年度の配当については、前年度から20円増配し、1株当たり年間120円にいたしました。

中長期事業ビジョン「VISION2030」の計数目標については、新規導入品の獲得及び新薬開発が順調に進捗していることに加え、今後の見通しの精緻化を行った結果、売上高を上方修正し、営業利益については、過去最高の営業利益の更新を見込む年度を明示いたしました。

なお、当社は、2024年3月27日開催の第132回定時株主総会で承認可決されたことをもって、監査等委員会設置会社へ移行いたしました。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

2024年3月

2023年度の概況

当事業年度の医薬品業界を取り巻く事業環境は、研究開発の高度化・難化による投資リスクが増大する中で、ウクライナ・中東情勢等の地政学リスクの高まりに伴う資源・原材料価格の高騰、急激な円安進行に伴う物価上昇に加え、医療費抑制策としての薬価制度の改革(毎年薬価改定等)、後発品の使用促進の影響等により大変厳しいものとなりました。

このような状況の下、当社では、「中期経営計画2023-2025」を策定し、中長期事業ビジョン「VISION2030」の実現に向けて、成長戦略の各施策とステークホルダーからの信頼維持策に取り組んでまいりました。

売上高は、アレルギー領域及び皮膚疾患領域における販売数量の伸長等により、増収となりました。

利益面につきましては、販売数量の伸長、仕入単価の上昇及び為替影響等により売上原価は増加し、販売費及び一般管理費は主にライセンス契約一時金の支払により研究開発費が大幅に増加したことから、増収があるものの営業利益は減益となりました。

当期純利益におきましては、政策保有株式の売却に伴い特別利益の投資有価証券売却益が増加したこと等により増益となりました。

なお、研究開発費控除前営業利益は増益となりました。

2024年度の見通し

医薬品業界を取り巻く事業環境は、2023年度に引き続き厳しいものになると見込まれます。

このような状況の下、当社におきましては、中長期事業ビジョン

「VISION2030」の実現に向けて、2024年度から2026年度を対象期間とする「中期経営計画2024-2026」を策定しました。前中期経営計画に引き続き成長戦略の各施策とステークホルダーからの信頼維持策に取り組んでまいります。

売上高は、「腎・透析領域」において、「レミッチ」、「リオナ錠」は後発品の影響及び薬価引下げが見込まれますが、「皮膚疾患領域」におきましては、「コレクチム軟膏」は小児向け処方を含む販売数量の伸長、「アレルギー領域」におきましては、アレルギー免疫療法のさらなる普及により「シダキュア スギ花粉舌下錠」、「ミティキュア ダニ舌下錠」の販売数量が伸長し、前事業年度に比べ増加する見込みです。

利益面につきましては、販売数量の伸長、仕入単価の上昇及び為替影響等により売上原価は増加し、販売促進費及び売上連動経費等の増加により販売費及び一般管理費も増加を見込みますが、売上高が増加することから、営業利益、研究開発費控除前営業利益、経常利益、当期純利益は前事業年度に比べ増加する見込みです。

2023年度実績及び2024年度業績予想

(単位:億円)

	2023年度実績	2024年度予想	増減額
売上高	546	586	39
営業利益	50	58	7
営業利益(研究開発費控除前)*	85	92	7
経常利益	53	62	8
当期純利益	41	47	5

* 中期経営計画の利益面の計数指標としては、将来の導入品獲得に向けて、当面は研究開発投資を積極的に実施することから、研究開発費控除前営業利益を設定しております。

配当について 2023年度期末配当支払開始日 3月28日

当社は、株主還元を重要経営課題の一つとして認識しています。株主還元については、継続的かつ安定的な配当の実施を基本方針としつつ、事業投資を通じた中長期的な企業価値の向上を実現することが株主の期待に応えることになると認識しています。

2023年度の配当につきましては、前述の方針・考え方にもとづき検討を行った結果、新薬開発の推進が順調に進捗(JTE-061の製造販売承認申請の実施、TO-208の第Ⅲ相臨床試験の試験速報結果)したこと等により、中長期の業績の見通しとして将来の成長確度が上昇したことを踏まえ、1株当たり年間120円とすることといたしました。

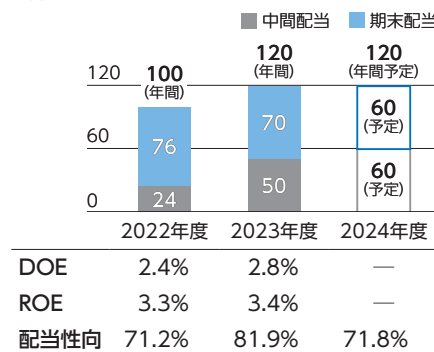
株主還元につきましては、継続的かつ安定的な配

当の実施を基本方針としつつ、さらなる充実を図る考えであり、引き続き、開発パイプライン充実の度合や財務状況等を定期的に評価しながら中長期的なDOE(株主資本配当率)の向上に努め、将来的に同業他社と遜色のないDOE水準(現時点では3.5%程度)を目指してまいります。(なお、具体的な達成時期につきましては、集中的な事業投資の進捗及び中長期事業ビジョン「VISION2030」の達成が一定程度見通すことが可能となる時期にお示しする予定です。)

また、2024年度の配当につきましては、上記方針・考えの下、1株当たり年間120円の配当を実施する予定です。

1株当たり配当金

(単位:円)



中期経営計画

当社は、2023年度から2025年度までの3ヶ年を対象期間とする「中期経営計画2023-2025」を策定し、中長期事業ビジョン「VISION2030」の実現に向けて、成長戦略の各施策とステークホルダーからの信頼維持策に取り組んでおります。

「中期経営計画2023-2025」2023年度進捗

■ 計数指標

	2023年度当初計画	2023年度実績	増減額
売上高	509億円	546億円	+37億円
営業利益 (研究開発費控除前)*	76億円	85億円	+8億円

* 中期経営計画の利益面の計数指標としては、将来の導入品獲得に向けて、当面は研究開発投資を積極的に実施することから、研究開発費控除前営業利益を設定しております。

■ 主要施策

成長戦略

◆ 成長期新薬の普及・育成・価値最大化

- | | | | |
|------------------------------------|---------------------------------------------------|-----------------------------------|------------|
| 腎・透析領域 | 皮膚疾患領域 | アレルギー領域 | その他領域 |
| ● エナロイ錠
● リオナ錠 | ● コレクテム軟膏 | ● シダキュア スギ花粉舌下錠
● ミティキュア グン舌下錠 | ● オラデオカプセル |
| ◆ 新薬開発の推進
● JTE-061
● TO-208 | ◆ 導入体制の強化
◆ 経営戦略に沿った人事制度等の整備と働き方改革
◆ 企業風土改革 | | |

ステークホルダーからの信頼維持

- ◆ 安定供給体制の整備・強化
- ◆ 薬事規制の遵守と品質保証
- ◆ コンプライアンスの強化
- ◆ コーポレートガバナンスの強化
- ◆ サステナビリティへの取り組み

■ 主なトピックス (2024年2月9日時点)

成長戦略

成長期新薬の売上高は着実に伸長

- 計数指標である「売上高」は前年度比2桁成長

JTE-061 開発が順調に進捗

- 小児アトピー性皮膚炎患者(2歳以上12歳未満)を対象とした日本国内第Ⅲ相臨床試験を開始(2023年8月)
- アトピー性皮膚炎及び尋常性乾癬を適応症として日本国内における製造販売承認申請をJTが実施(2023年9月)

TO-208開発が順調に進捗

- 伝染性軟属腫を適応症とした日本国内における第Ⅲ相臨床試験の速報結果を公表(2023年12月)

新規導入品の獲得

- 尋常性ざ瘡治療薬 Nogra社 NAC-GED-0507(2023年1月)
- イネ科花粉症に対するアレルギー免疫療法薬 ALK社 GRAZAX(2023年12月)

ステークホルダーからの信頼維持

シダキュア スギ花粉舌下錠の安定供給

- スギ花粉症に関する政府からの要請(2023年5月)
- スギ花粉の調達を一元的に担当する部門として、「原料調達部」を新設(2023年8月)
- 原薬製造設備の設備投資を意思決定(2025年稼働開始予定)

コーポレートガバナンスの強化

- 2024年3月の株主総会承認を条件として、監査等委員会設置会社へ移行することを取締役会で決議(2023年11月)

サステナビリティへの取り組み

- サステナビリティに関する基本方針策定、マテリアリティの特定、社外公表(2023年2月)
- マテリアリティと事業戦略、中期経営計画主要施策等とのかかわりを整理

■ 主な投資 2023年度に以下の投資を意思決定(2023年から2027年末までの5年間で400億円程度の事業投資を想定)

意思決定済の主な投資*

尋常性ざ瘡治療薬(NAC-GED-0507)のライセンス契約

- 2023年度投資額: 16億円程度
- 投資の概要
・ 尋常性ざ瘡治療薬(NAC-GED-0507)を対象にした国内における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約
・ 今後、開発等の進捗に応じたマイルストーンを支払予定

イネ科花粉症に対するアレルギー免疫療法薬(GRAZAX)のライセンス契約

- 開発等の進捗に応じたマイルストーンを20億円程度支払予定

シダキュア スギ花粉舌下錠増産に向けた設備投資

- 意思決定済投資額: 30億円程度
- 投資の概要
・ シダキュア スギ花粉舌下錠販売数量増加に対応するため、原薬製造にかかる設備投資

* 2023年に意思決定を行い、開示済み投資案件のみを記載しております。また、支払いを実施するタイミングについては、案件ごとに異なります。

「中期経営計画2024-2026」の策定及び 中長期事業ビジョン「VISION2030」計数目標の更新

既存製品及びJTE-061の売上予測の見直し、並びに、新規導入品の獲得及び新薬開発が順調に進捗し、過去最高の売上高は前倒しで達成できる見通しとなったことをふまえ、「VISION2030」の売上高を上方修正し、営業利益については、過去最高の営業利益の更新を見込む年度を明示しました。

「中期経営計画2024-2026」・中長期事業ビジョン「VISION2030」 計数目標及びガイダンス

「VISION2030」の目指す姿の実現に向け、「中期経営計画2024-2026」の計数指標としては、引き続き売上高及び研究開発費控除前の営業利益を設定しています。

2024年度予想	2026年度ガイダンス ^{※2, ※3}	VISION2030の目指す姿 ^{※3}
売上高 586億円	売上高 630～660億円	売上高 800億円超
営業利益 (研究開発費控除前) ^{※1} 92億円	営業利益 (研究開発費控除前) ^{※1} 90～100億円	営業利益 ^{※4} 2032年の過去最高益^{※4} 更新を射程に入れる

※1 中期経営計画の利益面の計数指標としては、将来の導入品獲得に向けて、当面は研究開発投資を積極的に実施することから、研究開発費控除前営業利益を設定。

※2 現時点での会社としての概算額を示す参考値であり、達成を目指す目標として位置づけるものではありません。

※3 中長期的な業績に影響を与えるリスクとして、シダキュア スギ花粉舌下錠、ミティキュア ダニ舌下錠について、直近の売上高の伸長が続いた場合、今後数年以内に市場拡大再算定(薬価引き下げ)を受ける可能性があります。当該リスクについては2026年度ガイダンス及び「VISION2030」に一定の想定の上、織り込み済み。

※4 「VISION2030」計数目標としては、2030年以降も研究開発投資を継続的に実施するものの、集中的な投資は一定程度完了している予定であることから、営業利益を指標として設定しております。過去最高の営業利益133億円(2001年3月期)

「中期経営計画2024-2026」の概要 主要施策

事業戦略に重大な影響を与える環境変化はなく、2023年度主要施策・業績ともに順調に進捗していることから「成長戦略」及び「ステークホルダーからの信頼維持」の2本柱を継続

成長戦略	ステークホルダーからの 信頼維持
<ul style="list-style-type: none">◆ 成長期新薬の普及・育成・価値最大化腎・透析領域<ul style="list-style-type: none">エナロイ錠リオナ錠皮膚疾患領域<ul style="list-style-type: none">コレクチム軟膏JTE-061アレルギー領域<ul style="list-style-type: none">シダキュア スギ花粉舌下錠ミティキュア ダニ舌下錠その他領域<ul style="list-style-type: none">オラデオカプセル◆ 新薬開発の推進<ul style="list-style-type: none">TO-208NAC-GED-0507GRAZAX◆ 新規導入品の獲得<ul style="list-style-type: none">経営戦略に沿った人事制度等の整備と働き方改革企業風土改革	<ul style="list-style-type: none">◆ 安定供給体制の整備・強化◆ 薬事規制の遵守と品質保証◆ コンプライアンスの強化◆ コーポレートガバナンスの充実◆ サステナビリティへの取り組み

監査等委員会設置会社への移行について

当社は、2024年3月27日開催の第132回定時株主総会で承認可決されたことをもって、監査等委員会設置会社へ移行いたしました。当社は、持続的かつ中長期的な企業価値向上を実現していくため、監査等委員である取締役が取締役会における議決権を持ち、かつ、取締役会の業務執行決定権限の相当な部分を業務執行取締役に委譲することが可能となる監査等委員会設置会社への移行により、取締役会の監督機能を強化するとともに、経営のさらなる迅速な意思決定の実現に向けた検討を進めていくことで、コーポレートガバナンスの充実・強化を図ってまいります。

また、支配株主からの独立性や少数株主の保護の観点から、引き続き、取締役会の過半数を独立社外取締役で構成する体制にするるとともに、取締役の指名・報酬に関する手続の透明性・客観性・公正性を更に向上させ、かつ、審議をより充実させる観点から、取締役会の任意の諮問機関として、独立社外取締役のみで構成する指名・報酬諮問委員会を設置しております。

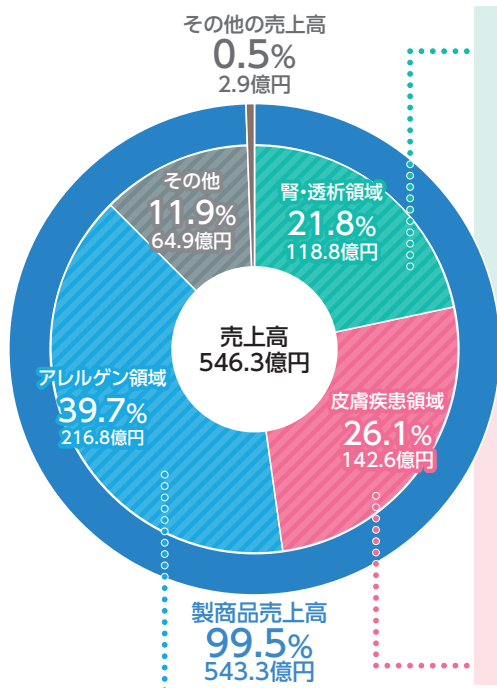
企業価値向上に 向けた 取り組み

「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を含む企業価値向上に向けた取り組みについて」を当社ウェブサイトに掲載しておりますので、詳細につきましては、当社ウェブサイトをご覧ください。

当社ウェブサイト▶
<https://www.torii.co.jp/ir/value/>



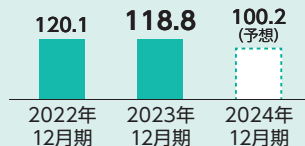
領域別の概要



腎・透析領域

「リオナ錠」が75.1億円と前事業年度に比べ5.7億円(8.3%)増加しましたが、「レミッチ」は後発品の影響に加えて薬価改定もあり27.2億円と前事業年度に比べ8.1億円(22.9%)減少しました。

売上高 (単位: 億円)



リオナ錠 高リン血症治療剤 / 鉄欠乏性貧血治療剤

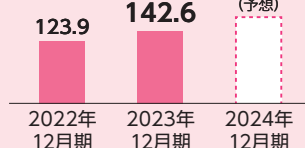


「慢性腎臓病患者(血液透析患者、腹膜透析患者、保存期腎不全患者)における高リン血症の改善」と「鉄欠乏性貧血」の2つの適応症を有する薬剤です。

皮膚疾患領域

「コレクチム軟膏」は小児向け処方を含む販売数量の伸長により74.5億円と前事業年度に比べ19.8億円(36.2%)増加し、「アンテバート」は45.3億円と前事業年度に比べ5.3億円(13.5%)増加しました。

売上高 (単位: 億円)



コレクチム軟膏 外用ヤヌスキナーゼ (JAK) 阻害剤

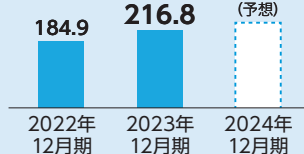


免疫反応の過剰な活性化を抑制することでアトピー性皮膚炎(AD)を改善する世界初の外用ヤヌスキナーゼ (JAK) 阻害剤です。2023年1月、添付文書に6ヵ月以上2歳未満のAD患者を対象とした臨床試験成績を追加しました。

アレルゲン領域

アレルゲン免疫療法のさらなる普及により「シダキュア スギ花粉舌下錠」は113.5億円と前事業年度に比べ17.4億円(18.2%)増加し、「ミティキュア ダニ舌下錠」は101.4億円と前事業年度に比べ14.5億円(16.7%)増加しました。

売上高 (単位: 億円)



シダキュア スギ花粉舌下錠 スギ花粉症のアレルゲン免疫療法薬



スギ花粉症に対するアレルゲン免疫療法薬であり、成人及び小児等において使用可能な速溶性の舌下錠です。

ミティキュア ダニ舌下錠 ダニアレルギーのアレルゲン免疫療法薬



ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎に対するアレルゲン免疫療法薬であり、成人及び小児等において使用可能な速溶性の舌下錠です。

主な研究開発品 (2024年2月9日現在)

開発番号 「製品名」	予定適応症等	剤形等	開発段階(国内)					備考
			PhaseⅠ	PhaseⅡ	PhaseⅢ	申請	承認	
JTE-061	アトピー性皮膚炎	外用剤					申請	<ul style="list-style-type: none"> ●日本たばこ産業(以下「JT」)がDermavant Sciences GmbH(以下「Dermavant社」)と日本国内における皮膚疾患領域での独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結した化合物 ●JTと日本国内における共同開発及び販売に関するライセンス契約を締結 ●JTが2023年9月に製造販売承認申請
	尋常性乾癬	外用剤					申請	
	小児アトピー性皮膚炎	外用剤			PhaseⅢ			
TO-208	伝染性軟属腫	外用剤			PhaseⅢ			<ul style="list-style-type: none"> ●Verrica Pharmaceuticals Inc.(以下「Verrica社」)と日本国内における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結 ●自社開発 ●Verrica社 開発番号:VP-102
TO-203 「ミティキュア® ダニ舌下錠」	室内塵ダニアレルギー疾患 (アレルギー性喘息) (アレルゲン免疫療法薬)	舌下錠			PhaseⅡ/Ⅲ終了*			<ul style="list-style-type: none"> ●ALK-Abelló A/Sと日本国内における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ●自社開発 *今後の開発方針について検討中

前回決算短信・参考資料公表時(2023年10月31日)からの変更点▶変更はありません

上記のほか、以下の契約を締結しております。

- 2023年1月 Nogra Pharma Limitedとの間で、同社が開発を進めてきた尋常性乾癬治療薬(NAC-GED-0507)の日本国内における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結
- 2023年12月 ALK-Abelló A/Sとの間で、同社が保有する、イネ科花粉を原因抗原とする花粉症を対象としたアレルゲン免疫療法(舌下免疫療法)薬「GRAZAX」の日本国内における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結

当社の親会社であるJT(うち医薬事業部門)とは、医薬品に関する製品及びサービスにおいて、各々の強みを生かし、当社は主に製造と販売の機能を担っており、親会社は研究開発の機能を担っております。なお、親会社の研究開発の状況は、JTウェブサイト上の「医療用医薬品臨床開発状況」をご参照ください。 <https://www.jti.co.jp/investors/library/business/briefing/index.html>

会社概要 (2023年12月31日現在)

商号 鳥居薬品株式会社
設立 1921年11月1日
資本金 5,190百万円
主要な事業内容 医薬品の製造・販売
従業員数 583名
(注) 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人数です。

本社 〒103-8439
東京都中央区日本橋本町3-4-1
トリイ日本橋ビル
TEL: 03-3231-6811 (代表)

主な事業所 北海道東北支社 (宮城県仙台市)、関東信越支社 (埼玉県さいたま市)、南首都圏支社 (東京都中央区)、中部支社 (愛知県名古屋)、関西支社 (大阪府大阪市)、中四国支社 (広島県広島市)、九州支社 (福岡県福岡市)

役員 (2024年3月27日現在)

取締役	執行役員
代表取締役社長 松田 剛一	常務執行役員 掛江 敦之
代表取締役副社長 近藤 紳雅	常務執行役員 藤原 勝伸
社外取締役 松村 卓治	執行役員 西野 範昭
社外取締役 真鍋 美穂子	執行役員 松田 浩二
社外取締役 藤田 研一	執行役員 有川 伸一郎

(注) 社外取締役 松村 卓治氏、真鍋 美穂子氏及び藤田 研一氏は、東京証券取引所の規則に定める独立役員として同取引所に届け出ております。

株式の状況 (2023年12月31日現在)

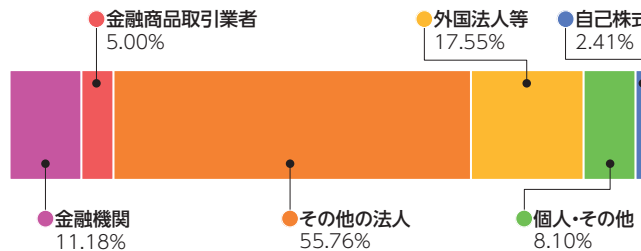
発行可能株式総数 54,000,000株
発行済株式総数 28,800,000株
株主数 (単元未満株主を含む) 4,111名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本たばこ産業株式会社	15,398,800	54.78
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,954,700	6.95
立花証券株式会社	952,900	3.39
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	778,000	2.76
JEFFERIES LLC-SPEC CUST AC FBO CUSTOMER	471,400	1.67
CEPLUX- THE INDEPENDENT UCITS PLATFORM 2	347,100	1.23
鳥居薬品従業員持株会	246,114	0.87
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	216,100	0.76
野村證券株式会社	215,365	0.76
MLI FOR SEGREGATED PB CLIENT	200,000	0.71

(注) 持株比率は、自己株式(694,772株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会・期末配当: 毎年12月31日 中間配当: 毎年6月30日
公告方法	電子公告 (https://www.torii.co.jp/)ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

財務情報の詳細は当社IRサイトをご覧ください。 [鳥居薬品 IR](#)

<https://www.torii.co.jp/ir/index.html>



〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 トリイ日本橋ビル
TEL 03-3231-6811 (代表)

